

蛇の衣

今瀬剛一

舟を押し出す夏草の上すべり

蛇通り抜けたる蛇の衣であり

みどりみどりとやがて死す人ばかり

口づけて頬をくぼます子供の日

朝曇下駄を濡らして水運ぶ

歳時記を這ひ出て兜虫歩く

子子の浮いたきりなり震度四

竹騒の中筍を掘り起こす

雲一つなくて金魚の浮き沈み

桃の実を挽ぐのに何の腕捲り

青嵐土俵をシートもて覆ひ

踵から踏み出す一步春の海

声上げて登四郎が泣く青嵐

棘よりも鋭く薔薇の芽吹くなり

蛇穴を出てゆく施錠まではせず